

## 令和5年度第2回千葉県糖尿病性腎症重症化予防対策推進検討会 議事録

1 日 時 令和6年2月29日（木）10時30分から12時10分まで

2 場 所 各所属（Zoomを使用しウェブ上で開催）

3 出席者（敬称略）

### 【委員】

関根真紀子、高橋由美子、鵜澤裕輝、小原正利、田中英之、荻野健太郎、志賀元、  
櫻井健一、今澤俊之、横手幸太郎、三村正裕、影山育子、佐藤勝巳、佐々木徹、  
寺口恵子

### 【オブザーバー】

小野啓、藤井隆之、倉本充彦、日比野久美子、藤川真理子、吉森和宏

4 議 題

（1）各機関の取組状況と今後の方向性

- ①「保険者努力支援制度」及び「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」における重症化予防の取組状況
- ②糖尿病性腎症重症化予防プログラム取組状況調査結果（市町村）
- ③CKD部会開催結果
- ④千葉県糖尿病性腎症・CKD重症化予防対策の評価について

（2）糖尿病性腎症重症化予防プログラムの改訂について

（3）その他

- ①千葉県次期保健医療計画及び健康ちば21（第3次）案について

## 会議結果要旨

### 議題（1）各機関の取組状況と今後の方向性

- ①「保険者努力支援制度」及び「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」における重症化予防の取組状況

## ○会長

最初に、議題（１）①の保険者努力支援制度についてである。保険者努力支援制度においては、本事業の実施に関する市町村国保の評価項目の一つに、「糖尿病対策推進会議等との連携を図ること」があり、千葉県では保険指導課が全市町村分の取組状況をまとめて本検討会に報告し助言を得ることで、この要件をクリアしているところである。市町村保険者努力支援制度の取組状況について、千葉県保険指導課から御報告いただき、皆様から御意見をいただければと思う。それでは、保険指導課から説明をお願いします。

### 【保険指導課より、資料１－１に基づき説明】

## ○会長

ただいまの説明について、御質問や意見等あればお願いしたい。

実際の市町村の状況について船橋市、木更津市での取組状況や課題等を報告いただきたい。

## ○委員

船橋市での取組として、今年度は次期データヘルス計画策定のため KDB システム等を活用して健康課題の分析整理をした結果、来年度も健診からの対象者を抽出し重症化予防対策を実施する流れに変更はないが、国で治療中断者における中断期間の定義が「１年程度」とされている所を、当市では「２年程度」で運用していたため、次期計画からは中断期間を短縮して抽出を行い、中断早期から介入する予定である。この中断期間の短縮に伴い、従来 150 名/年であった対象者数が 4～5 倍となるが、中断期間が長くなるほど、受診の流れに戻すことが難しくなることから、早期介入の重要性を考え、次年度から実施する。

## ○委員

木更津市では、治療未治療問わず腎臓病地域連携パスを活用して地域かかりつけ医及び専門医と連携した取組を継続している。加えて国民健康保険中央会から提供される腎機能予測結果還元票という AI 判定による 3 年後、5 年後、7 年後の eGFR 値と個人の医療費削減の予測データを活用した保健指導を今年度から開始した。G3a、G3b、G4 の人を対象としている。eGFR が 1 年で 40%低下している方が専門医につながっていないといったケースも見受けられ、介入の重要性を実感している。

また、健診未受診者も含め腎臓病地域連携パスの対象外もレセプト等から抽出し、県プ

プログラムに準じて対応している。尿中食塩濃度検査は令和4年度から集団健診に取り入れており、数値を参考とした保健指導を実施している。自身の摂取塩分量を値として見ることで、塩分制限の具体的な目安がわかるため市民の方の反応もよい。

○委員

両市とも取組を進めていただいております、特に木更津市は「見える化」を進めている点が印象的である。滋賀県の病院等でも eGFR の年間低下速度から透析導入時期を推定し、医療費への影響の見える化を進めていると聞いている。塩分等の栄養摂取量も見える化を進め、市民へわかりやすくすることは先駆的である。

○会長

それぞれの取組が進んできている中、次のステップへの取組が期待される場所である。

○会長

次に、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の取組についてである。一体的実施の取組は、令和2年度に開始され、令和6年度までに全ての市町村で展開していく予定と聞いている。県内においては、重症化予防に取り組んでいる市町村数は少しずつ増えてきているとのことで、委員から取組状況の報告をお願いします。

【委員より、資料1-2に基づき説明】

○会長

高齢者は腎機能が低下していくため、地道な取組ではあるが大変有意義である。委員より御意見あるか。

○オブザーバー

資料1-2の「かかりつけ医の連携等」の「実施協力」とは何を指すのか。

○委員

市町村によって判断は異なるが、例を挙げると市の医師会等との連携が情報提供に留まる程度なのか、もしくは実施のレベルまで連携しているかといった差である。

○オブザーバー

(資料1-2について) 市原市では、対象となる高齢者事業のかかりつけ医との連携について保健センターが実施協力をしている。○がついていないので、確認を行う。

② 糖尿病性腎症重症化予防プログラム取組状況調査結果 (市町村)

○会長

続いて事務局から糖尿病性腎症重症化予防プログラム取組状況調査結果について報告をお願いします。

【事務局より、資料2に基づき説明】

○会長

本資料には、被用者保険の取組状況についての記載はないが、全国健康保険協会千葉支部の取組状況についてからも報告をお願いします。

○委員

各市町村の取組と比較して、協会けんぽではそこまで細やかな取組は出来ていない状況である。健診後の受診勧奨では、血圧・血糖・脂質について年間約20,000人へ受診勧奨を実施している。その内、尿蛋白(+)以上もしくはeGFR60未満の場合にCKDの受診勧奨を実施している。担当部署のマンパワーの問題で令和4年度の途中からCKD受診勧奨を一時中断していたが、昨年10月再開し、今年2月までの間で1,564人へ受診勧奨を実施した。現時点で確認できている勧奨後の受診率は2.37%であり、国保と比べると低い。低い理由としては、平日は働いていて受診が難しいこと、細やかなフォローが出来ていないこと等が考えられる。

③ CKD部会開催結果

○会長

続いて令和5年12月7日に開催された第2回CKD部会の開催結果について、委員から報告をお願いします。

【今澤委員より、資料3-1、3-2、参考資料1に基づき説明】

○委員

検査のワンチェックオーダー化について、尿アルブミン定量の検査実施については、保険審査時において査定を受けることもあるため、先生方に不利益を講じないような案内を記載したいと考えているが、御意見あるか。

○オブザーバー

医師会として、なるべく会員の先生方が査定されないような記載としていく必要があると考える。

○委員

例えば病気の説明として糖尿病性早期腎症の説明をより詳細に記載するのはどうか。

○委員

再考いただいた案をいただければ、医師会で再度確認を行う。ただし、来年度から医師会報への同封ができなくなったため、方法についても再検討する必要がある。

○委員

提案いただいた内容を元に再度検討を行い、医師会所属の先生方へのワンチェックオーダー化を進めていただくための依頼を実施できるよう進めていきたい。

○会長

今年度から千葉県 CKD 協力薬局制度が開始されているが補足等あるか。

○委員

今年度から開始したところで、協力薬局についてはまだ地域差がある状況である。地域薬剤会での研修を実施し協力薬局増加に向けて進めていく。

○会長

千葉県栄養ケア・ステーションにおける外来栄養指導についても今年度からの開始であるが、追加事項等あれば願います。

## ○委員

昨年7月から開始し、現在までで2施設で延べ30件の実施があった。情報通信機器を利用した栄養食事指導についても契約書等の準備が整い、今後活用していく予定である。

また、CKD対策協力医通信を見たCKD対策協力医（以下協力医）から問い合わせがあり、現在契約に向けて手続きを進めている。

## ○会長

コロナ禍の収束に伴い、このような取組が今後非常に重要になってくると考える。

栄養指導については、市原市の取組についてもオブザーバーから御紹介いただけるか。

## ○オブザーバー

市原市では3基幹病院の管理栄養士達が一般社団法人市原栄養指導ケアネットワーク（以下、INGEN）を設立して活動している。他市町村の参考となると思うため紹介させていただく。

2015年に市の保健センターでCKD対策協議会が、2018年には市原圏域糖尿病性腎症重症化予防対策推進協議会（以下、協議会）が医師会を事務局として設立され、当初毎月、コロナ禍では2か月毎に開催されてきた。県の「CKD協力医」に先んじて、既に「糖尿病連携医」制度が発足している基盤がある中、保健所の支援を受け千葉労災、循環器病センター、帝京の3病院に所属するCDEJ（日本糖尿病療養指導士）を有する管理栄養士達が結成した勉強会を発展させ2020年にINGENを設立した。

INGENは、医師会支援のもと行政を含め市内の関係医療機関と連携してCKD重症化予防のための栄養指導を行っており、市原市糖尿病性腎症重症化予防事業だけでなく市の独自事業である75歳以降の高齢者への継続した栄養指導も担当している。医師会では、管理栄養士と連携する「協力医」、「連携医」に対して研修を実施している。INGENでは、質の高い指導能力を養成・維持するため毎月、協議会や外部の大学や病院等の糖尿病・腎臓病・循環器等の専門医講師による研修会を対面・オンラインで実施している。

今後、INGENは千葉県認定栄養ケア・ステーションの認定も受け、関連事業にも取り組んで行く予定である。

## ④ 千葉県糖尿病性腎症・CKD重症化予防対策の評価について

### ○会長

続いて④千葉県糖尿病性腎症・CKD 重症化予防対策の評価についてである。

前回決定した評価指標をもとに、進捗状況をまとめていただいた。各項目の状況を踏まえてこれまでの取組を振り返るとともに、次年度以降の取組の方向性について、御意見を頂戴したい。それでは事務局から説明をお願いします。

**【事務局より資料4-1、資料4-2、資料4-3、参考資料2に基づき説明】**

○会長

委員から意見を頂戴したい。

○委員

徐々に進んでいるという印象を受けた。透析導入患者数も増加しているが、頭打ちになってきていると考える。協力医の先生方にとっては、腎臓専門医からの逆紹介が増えることがインセンティブになると思うので、より増加するとよいと考える。薬剤師会の取組についても今後より進んでいくとよい。

○委員

単一健保では各健保の独自事業が多いこともあり、健康保険組合連合会千葉連合会では全てを把握できていない。共同事業としては、令和4年度の保健指導完了件数が39件と少なく、市町村の取組を参考にする必要があると考えている。

○委員

全体的によい傾向であると感じたが、看護分野でも今後外来の充実が必要とされているため、関わり方について考えていきたい。

**議題（2）糖尿病性腎症重症化予防プログラムの改訂について**

○会長

続いて議題（2）に移る。事務局より説明をお願いします。

**【事務局より、資料5に基づき説明】**

○会長

国のプログラム改訂に併せて県のプログラムの見直しが必要であるため、来年度以降内容についての検討を進めていく。

### 議題（３）その他

#### ① 千葉県次期保健医療計画及び健康ちば21（第3次）案について

○会長

次に議題（３）に移る。千葉県次期保健医療計画及び健康ちば21（第3次）案について事務局より説明をお願いします。

#### 【事務局より説明】

○会長

全体を通して御意見等あるか。

○委員

KDB システムの活用状況については、研修会などで市町村の声を聞くと日々の業務に追われて中々活用に至らないといった意見があった。より効率的に KDB を活用してもらえるような支援をしていきたい。

○委員

糖尿病協会としての行事は多く開催できなかったが、各市町村や機関において取組が進んでいることを感じた。糖尿病対策推進会議を通じて県の対策に貢献していきたい。

○委員

保健所としては、地域職域連携推進事業の中で地域と取組を進めていく。

○先生

資料5のスライド3の市町村に関する記載の中で、被保険者は市町村国保と被用者保険の間を異動するため市町村国保と被用者保険の連携が必要とあり、今後考えていかななくてはいけないと考える。特に中小企業と市町村でコラボして取組を進めていくためのアイデ



ィア等あるか。

○委員

糖尿病性腎症に限らず、市町村と被用者保険の連携の必要性については以前から各分野で話合われている。現状上手くいくような具体的な方法につながってはいないが、進めていく必要があるという認識である。

○委員

以前、柏市で被用者保険と行政の連携のために、市から5,000件近い事業所にアンケートを実施したが、回答があったのは6件であった。今の所事業所の認識はその程度であると考えている。

○会長

本日も活発な御意見及び討論をいただいた。各関係機関において着実に取組が進んでいくことが共有出来た。現状、課題もあるが、1つずつ解消して進めていく。

次年度は国のプログラムの改訂を踏まえて県のプログラムをどう改訂していくかについて、皆様の御意見を賜りながら検討を進めていくこととなるため、引き続き協力をお願いする。